

# 探鳥会報告

【目的】 裏磐梯地区の野鳥の生息状況を調査する

【概要】

(1) 調査実施日

第1回	2020年	1月10日	-3℃	曇り
第2回	2020年	2月13日	-15℃	晴れ
第3回	2020年	3月12日	-4℃	曇り時々晴れ
第4回	2020年	4月9日	0℃	曇り後晴れ
第5回	2020年	5月14日	8℃	晴れ
第6回	2020年	6月9日	7℃	晴れ
第7回	2020年	7月9日	17℃	曇り
第8回	2020年	8月19日	13℃	晴れ
第9回	2020年	9月17日	15℃	曇り
第10回	2020年	10月14日	11℃	曇り時々晴れ
第11回	2020年	11月12日	-5℃	晴れ
第12回	2020年	12月10日	-6℃	晴れ

(2) 調査者

裏磐梯エナガの会

五十嵐悟（第5、10～12回）、池田明美（第1～12回）、伊藤延廣（第5回）、小椋敏也（第1、3回）、粕谷正則（第3、5、6、8、9、11、12回）、芝澤隆男（第2、3、8～11回）、芝澤恵子（第2、3、8～11回）、武田光正（第3回）、中村純平（第1、4～6、8、12回）、中村聡子（第1～10、12回）、星崎歩美（第3～7、9回）、星野ゆかり（第6、12回）、宮野敏子（第1、3～7回）、宮本千帆（第7回）、中森正茂（第3～12回）

## 【結果、考察】

### 冬（1月～3月）

この冬はキハダの実がたわわに実り、4月半ばまで一冬中、この実を食べにくるオオマシコ30羽ほどが定期的に観察できた。真っ赤な雄もたくさんいてバーダーの目を楽しませた（右の写真参照）。



レンジャクは初冬に大量に飛来し、ヤドリギやカンボクなどの実を食べ尽くしたようで、1月20日頃には既に裏磐梯から姿を消していた。会津盆地のミシラズカギを目当てにヒヨドリ、ツグミとバトルを繰り返している群れが観察できたが、裏磐梯から移動した群れの可能性も考えられる。

例年5月の連休に北帰行の途中の群れを確認できるが、今年は確認できなかつたので、ルートが変わったのかも知れない。

この冬はアカマツの松かさも豊富でイスカも一冬中観察できた。ベニヒワは今年も確認できず3年続けて確認できず。マヒワも例年より少なかった。

### 春・夏（4月～9月）



夏鳥の飛来は例年通りで、5月の連休にはキビタキ（左の写真）、オオルリ、ノジコらのバトルが間近に観察できた。

5月後半には溪流沿いを好むマミジロの縄張り宣言の囀りを容易に定点観測できた。マミジロの個体数が多く、縄張りが重なったためと思われる。

アカショウビンは5月20日過ぎに飛来し、7月19日から20日にかけて4羽の巣立ちを確認できた。7月21日には雄親のロードキルが発生してしまい、来シーズ

ンの繁殖が危惧される。

ミサゴの繁殖も同じ島で5年目の確認ができた。オオジシギの繁殖は確認ができないことが続いており、今後確認できなくなる可能性もありそう。

## 秋・冬（10月～12月）

11月には秋の渡りで、マミチャジナイがツグミの群れに交じりよく観察できた（右の写真参照）。

11月10日にレンジャクの群れが飛来し、12月中頃までに300羽程が飛来、1月には分散しているので、会津の方に下がっている群れがあるかも知れない。

マヒワは例年よりは少ないが、数百の群れが入っている。この冬、ベニヒワの確認はない状況だが、今後に期待したい。飛来がなければ4年連続で確認なしとなる。



今年もアカマツの松かさがたわわに実り、200羽程のイスカ群れが飛来してきているが、裏磐梯にはアカマツが多いため、飛来場所が一定せず確認が難しい（左の写真参照）。

オオマシコもキハダの実が皆無であり確認できていない。一度だけ3羽の飛来を確認が、移動中に様子を見にきたものと思われる。

秋口になるとこの2、3年カビチョウの声を聞くようになり、冬になっても3羽の確認できている。繁殖の確認はないが、これから増えていく可能性がある。

調査記録の詳細は添付資料の通り。

（略号） 姿：V さえずり：S 地鳴き：C 飛翔：F ドラミング：D